東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 2 月 6 日

うぬぼれ

親愛なるムスリムの皆様。ムスリムの道徳的人格にふさわしくない、アッラー、預言者、そしてよい人々の位階において人の価値を失墜させる否定的な要素の最たるものが、うぬぼれと呼ばれる悪い性質です。クルアーンではうぬぼれという概念が、「人が偉大であるふりをすること、自らを他者よりも優れていると見なすこと」、より固有の意味としては「信仰を持たない人がムスリムを軽視し彼らの信じるところを信じようとしないこと、彼らが行く道を行かないこと」という意味で用いられています。クルアーンによって明らかにされているところによるなら、最初はシャイターンが自らをアーダムさまよりも優れていると主張し、アッラーの命令に逆らいました。またそのことによってアッラーの慈悲から遠ざけられることにもなりました。

イスラームの信仰によると、真の意味で偉大であり崇高であられるのはただアッラーなのです。だからしもべがうぬぼれることは、アッラーに対する不敬なのです。うぬぼれは、人の公正、慈しみ、愛情といった優れた感情をだめにし、判断の基準を壊すものであり、クルアーンでは「このようにアッラーは、凡ての高慢で暴逆な者の心を封じられる。」（ガーフィル章第 35 節）と述べられているのです。

有名なイスラーム学者のアルーマヴワルディはこの点について要約すると次のように述べています。「うぬぼれは全ての悪のうち、最も危険なものである。うぬぼれを抱く人々の間では憎悪が生じる。社会の調和を壊し、親友たちの心に憎しみをもたらす。だから預言者ムハンマド（彼の上に平安がありますように）は「心にほんのわずかでもうぬぼれがある人は天国に入ることができない」と仰せられているのです。イマーム・ガザーリーは不滅の作品「**Ihyâu ulûmi'd-dîn**」で、このハディースについて言及したあと、次のような解説をしています。「うぬぼれは天国へ入ることの妨げとなる。なぜならうぬぼれを持つ人は、自らのために愛するもの、自らのために求めるものを教えの兄弟たちのために愛し、求めることがない。自己中心的であることから、憎悪、怒り、妬みとった感情から自らを救うこともできない。真実を承認せず、役に立つ警告を忍耐して聞くことができない。誰のことも気に入らない。うぬぼれた人は自らを常に立派で優れていると見なしているため、この偽りの偉大さを証明しようとして他者を迫害したり不正を行なったりすることをためらわない。」

親愛なる皆様。うぬぼれの感情の、ここで要約して説明してきたような害や危険性のため、クルアーンの徳によって育成された預言者ムハンマドは、うぬぼれが抱かれることを嫌われ、ご自身に対し過度な好意が示されることを決して承認されませんでした。友人たちが集まっている所にいらっしゃった場合、あいている場所に座られ、病人や親友、隣人たちを訪問され、困窮者、貧困者、あてにする者のない人々、そして孤児には特別にかかわりを持たれていました。召使と共に座って食事をとられました。食料を市場から自ら運ばれました。生涯を通し、この素晴らしい性質を他のムスリムたちにも獲得させようと努力された預言者ムハンマドは、次のように仰せられました。「アッラーは私に、誰も誰かに対しうぬぼれを抱かず、皆が謙虚でいなければならないと教えられた。」謙虚さの模範であられる預言者ムハンマドの優れた徳から遠ざかる者は、そのお方自身からも遠ざかることになるのです。道徳、美徳において親愛なる預言者ムハンマドと近くある者はどれほど幸福であることでしょうか。